

「バリには不思議な魅力がある」ことは何回か述べたが、バリ人の感覚もまた不可解なところがあると私は思っています。

何が不思議かという、彼らの美的意識。どんなに安いホテルでも、もともとあったであろう花の咲く樹木を上手に利用して、洗面台、トイレ、バスタブ、ベット、机、階段を色とりどりの花で飾り、その自然で上品な香りが部屋を漂よっている。ホールには水かめや水鉢に花びらを惜しげもなく浮かばせている。

それらひとつ、ひとつのセンスの良さに感服。その一方で川にはビニール袋のまま捨てられたごみが浮いていたり、道路には紙くずが捨てられていたり、お供えした籠もりの花が薄汚くなったまま放置されていたり・・・。

「バリ人は商売上手」それでいて怠け者？なところもあります。

たとえばジンバランビーチ、日本では公共のビーチ、それも本当に波の近くまでテーブルと椅子を並べてキャンドルと月明かり、星明りの中で魚のBBQをするなんて許されないでしょう。それが当たり前のようにできてしまうのです。想像しただけでもロマンチックでしょう。そんな店が何件も連なっており、それぞれの店が小さなステージを持っていて、レゴンドانس、ティンクリット演奏があるのです。(日本だって、たとえば

私の住む街にはお祭りのときにお囃子があり、子供たちは夏祭りに向けて練習しているけど、そのときだけ)

怠け者という言葉には語弊があるかもしれないけれど、昼間からガゼボ(屋根つきやぐら)で大の男が何人もただ座ってボーとしている姿をよく見ます。それでも生活できてしまうのはよい事なのかどうかは私にはわかりませんが。

つい先日、日本からやってきた友人たちと北部にあるビーチへ行ってきました。夕日を堪能し、遅めの夕食をとった後、ビーチで空を見上げると星、星、星、「星と星の間に小さな星がこんなにたくさんあったんだ！」と

飽きることを忘れて見上げていました。

帰国も迫り、親しくしているバリ人と来年のために家の下見に行ってきました。

空港まで続くバイパスから徒歩10分くらい奥まった所。近くには地元人が行く市場のほかに、オープン間近かなコンビニがあります。そして新築の家の間取りは、下がオープンスペース、ダイニング、寝室2部屋、バスタブ付きの広い浴室兼トイレ、もうひとつ別にシャワー兼トイレ。ビルトインの車庫、裏庭には洗濯スペース。

2階はかなり広いオープンスペース、寝室2、テラス、物置。しかもテレビ、クローゼット、応接セット、机、カーテンつきです。それが1年間で25万円です!!決して単位を間違っていない。立派な一軒家です。周りはバリ人の住宅街。信じられないでしょう。これは2人でシェアすれば楽すぎて最高だと思いませんか?

バリ滞在中に撮った写真は600枚以上。バリはすべてが写真の被写体となります。そんなバリとも別れの時が近づいてきました。また来年、私はきっと訪れることでしょう。